2026年11月期第２四半期(中間期)決算説明会（オンライン開催）質疑応答要旨
(開催日時：2026年７月10日(金) 16時30分～17時15分)

Ⅰ.2026年度第２四半期実績	
1.農薬事業	
Q. 農薬事業の業績が好調であるが、海外輸出の前倒し受注の影響が大きいのか？ 下期の見通しは？	A. 国内販売、海外輸出とも実質的に伸びていると受け止めている。加えて、海外輸出において中東情勢の影響を受けた前倒し受注があり、これが業績を押し上げた。 国内販売は、これまでの普及推進活動の成果が現れていることに加え、水稲剤は前年に続き防除意欲が高いことも後押しした。園芸剤は、普及推進している除草剤ザクサ液剤が前年に続き伸長している。海外輸出は、天然物由来の主力原体カスガマイシンの販売が好調であり、加えて前倒し受注が業績を押し上げた。 基本的には、国内販売、海外輸出ともに、これまでの普及推進活動の成果が現れていると認識しているが、下期において、海外輸出の前倒し受注の反動が生じる可能性もあり、慎重に見極めていきたい。
2.ファインケミカル事業	
Q. レジスト用途について、KrF、ArF、EUV、生成AI向け、それぞれの売上高は？ また、２Q（３～５月）の売上高と１Q対比での動向は？ 各用途の下期見通しは？	A. レジスト用原料の売上高11.5億円（前期比▲５億円）のうち、KrFが約９億円（同＋0.7億円）、ArFが約２億円（同＋0.1億円）、EUVが約0.4億円（同＋0.3億円）、生成AI向けが０円（同▲６億円）。 また、２Q単体（３～５月）では、KrFは約5.1億円（１Q対比＋1.5億円）、ArFが約１億円（同＋0.2億円）、EUVが約0.3億円（同＋0.1億円）、生成AI向けが０円（同±０）。 主力のKrFは、販売先の在庫調整が続いていたが、需要が確実に回復してきたと見ており、期初予想のシナリオに沿って、需要回復による通期での増収を見込んでいる。 ArFについても伸びてきており、下期は増収幅の拡大を見込んでいる。 EUVは、概ね前期並みでの推移を見込んでいる。 生成AI向けは、2025年度４Qから販売先の在庫調整の影響を受けており、当期２Q段階の受注はゼロとなっている。下期は受注が見込まれるが、通期ベースで減収となる見込み。 なお、生成AI向けの需要減少は、構造的な問題ではなく、販売先での一時的な在庫調整の影響と認識しており、2027年度以降は需要が回復すると見ている。生成AI向けの中長期的な需要拡大基調に変わりはないと考えている。

本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。